

よる。美容的に問題となり、母斑と鑑別を要す。

参考文献

- 1) Chandler, F. W., Kaplan, W., Ajello, L.: Superficial and cutaneous mycoses. A Color Atlas and Textbook of the Histopathology of Mycotic Diseases, Wolfe Medical Publisher, London, 1980, 116-121
- 2) Lever, W. F., Schaumburg-Lever, G.: Tinea (dermatophytosis), Fungal diseases. Histopathology of the Skin, 7th ed., J.B. Lippincott Company, Philadelphia, 1990, 364-368
- 3) 田沼弘之：炎症性皮膚疾患(12). 真菌感染症 I. 病理と臨床 1991, 9: 647-652
- 4) 田沼弘之：炎症性皮膚疾患(13). 真菌感染症 II. 病理と臨床 1991, 9: 775-778
- 5) 西山千秋：皮膚糸状菌症. とくに深在性白癬について. 病理と臨床 1991, 9: 1154-1159

■白癬菌の進化

ミズムシ、タムシは皮膚糸状菌(白癬菌)感染症であり、その原因菌としては形態学的に3属10種の白癬菌が知られている。一方、生態学的には、好土壌性白癬菌、好獣性白癬菌、好ヒト性白癬菌に分けられ、前二者は急性感染症(症状が強いが治癒しやすい)を後者は慢性感染症(炎症症状は軽度だが再発しやすい)を引き起こすことが知られている。こうした白癬菌の進化に関する田中壯一氏の考察を紹介する。

- ① 土壌真菌がケラチン分解能を獲得する(*M. gypseum*)。
- ② 土壌を離れ、複数種の動物に寄生する(*M. canis*)。
- ③ ヒトなど特定の宿主に寄生する(*T. rubrum*)。
- ④ ヒトに宿主範囲を狭めた好ヒト性白癬菌が、さらに人種好性を示す(*T. violaceum*)。
- ⑤ 一定の遺伝性素因を有するヒト(個体)にのみ感染する(*T. concentricum*)。

進化に伴って、白癬菌は分生子形成能などの soil-associated character を喪失し、無性生殖により増殖するようになる。臨床的には、進化した白癬菌による感染は、宿主の免疫学的排除機構から免れ、慢性型の症状を呈する。*T. violaceum* 感染は黄色人種では炎症が軽度だが、黒人では激しい症状を示す。*T. concentricum* 感染により生じる渦状癬 tinea imbricata は、東南アジア、オセアニアなどの熱帯にみられる白癬で、渦紋状の外観を呈する皮疹が特徴的である。成人男性の軀幹部に好発する。常染色体劣性遺伝する素



図7 東ティモール人にみられた頸部皮膚の渦状癬。渦紋状の鱗屑輪の形成が特徴である。毛髪は侵されない。痒みを伴う。家系にこだわる水虫菌 *T. concentricum* による感染症である(大津市, 田中皮膚科医院, 田中壯一博士のご厚意による)。

因が発症に関与すると報告されている(宿主範囲がきわめて狭い)。鱗屑輪が輪状に拡大し、ついに同心円状を呈するに至る(図7)。一つの鱗屑輪が他の鱗屑輪と接して、複雑な渦紋状外観を示す。まれながら、日本人の報告例もある。

参考文献

- 1) 田中壯一：(続)水虫菌の進化。渦状癬に関して。医学のあゆみ, 1999, 190: 166-167
- 2) 中野政男：渦状癬。皮膚病診療 1999, 21: 1169-1173